

I 実践

1 研究主題

「自他の良さを認め合う生徒の育成」
～いじめ撲滅を目指した様々な取り組みを通して～

(1) 主題設定の理由

「自分の大切さと共に他の人の大切さを認めること」、「支援することのできる実践的な態度を育成すること」が本校の人権教育の視点である。本校では、茨城県教育委員会が行った人権教育の指導方法等に関する調査研究会議での「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすること」が学校における人権教育の目標とされている。本校の QU アンケートの結果からも、各学級に不満足群、要支援群、非認証群に分類される自己肯定感や自己存在感の低い生徒がいることが分かる。そのため、自分と他の人の大切さが認められるような環境をつくる必要がある。また、文部科学省「人権教育の指導方法等の在り方について」に、「言語環境は、児童生徒が相互によさを認め合い、励まし合い、支え合うあらゆる人間関係の基盤である。」と明示されている。茨城県教育委員会の調査によると、いじめの内容ランキングでは、男子の 1 位、女子の 2 位に「悪口・からかい」があがっており、言葉によるいじめが多いことが分かる。そこで、言語環境の整備の視点から、いじめ撲滅を目指した様々な取り組みを通して、自他の良さを認め合う生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア いじめの実態把握のためのアンケートの実施

(ア) いじめアンケートの実施

(イ) QU アンケートの実施

イ 教員の意識を見直す研修の充実

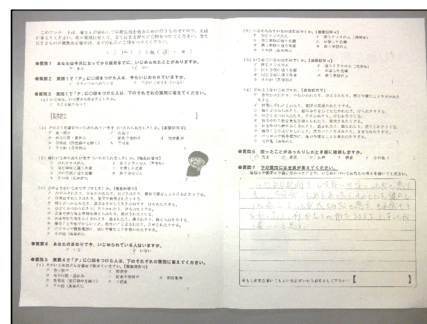
ウ 言葉によるいじめを見直すためのいじめ防止フォーラムの開催

2 実践内容

(1) 実態把握のためのアンケートの実施

ア いじめアンケートの実施

本校では、いじめの実態把握をするため、毎月いじめアンケートを実施している。アンケートの目的は生徒のいじめの把握ではあるが、生徒一人一人の思いや悩みも確認することができる。その中で、言葉によるいじめやトラブルがないかを確認することができた。



写真① いじめアンケート用紙

イ QU アンケートの実施

本校では全学年で QU アンケートを実施している。また、校外で行われた QU アンケートに関する研修に本校教諭が参加し、そこで学んだことを校内の職員会議において研修報告を行っている。一人一人の支援の仕方を考えるだけでなく、学級経営をどのように進めていけば良いのか考えることができ、より効果的に活用することができた。QU アンケートの結果を学級担任だけではなく、生徒指導部員会を中心に学年全員で共通理解を図り、指導に生かしている。

(2) 教員の意識を見直す研修の充実

ア コンプライアンス研修の実施

本校では、毎月の職員会議の際にコンプライアンス研修を行っている。当番制で全職員が資料を用意し研修を行うので、資料を作る際にコンプライアンスの問題について詳しく調べることで、当事者意識をもつことができた。研修内容の中には、体罰に関するものもある。「言葉遣いで信頼関係の構築」という研修では、日々の言動を振り返るセルフチェックや、実際に問題が起きたことを想定してどのような対応をすれば良いかを考えることで、日頃の自分の言動に問題がないかどうかを把握することができた。言葉

により、生徒が傷ついたり、悪影響を及ぼしたりする危険があることを改めて確認できた。生徒に及ぼす影響の大きさを感じ、「生徒は先生をよく見ている」ことを意識して生活しなくてはならないと再確認する機会となった。

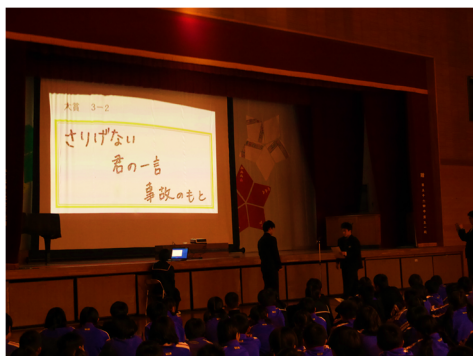
イ 道徳研修の実施

本校では今年度、「自ら進んで学び合う生徒の育成～道徳の授業を生かした実践を通して～」という研究課題のもと、課題研究が行われている。毎月の職員会議の際に、課題研修が行われ、道徳についての事例の紹介や、アンケートの実施など、課題研主任によって様々な工夫を凝らした取り組みがされている。1学期末に職員を対象に行ったアンケートの結果からは、「生徒は問題解決に向かって、多くの人と関わり合い、互いに認め合いながら学習することができる。」という項目に対しては、91%の職員がそう思うと解答した。また、「生徒は道徳的価値を意識して、自らの生活に生かそうとしている。」という項目にそう思うと解答した職員は65%と、課題の残る結果となった。2学期は、職員だけでなく生徒にもアンケートを実施して、成果を分析し、3学期に生かしていく。

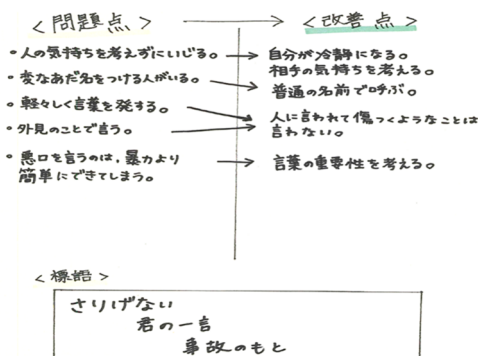
(3) 特別活動の取組

ア 普段の言語環境を見直すためのいじめ防止フォーラムの開催

「いじめ防止フォーラム」を、生徒会を中心に実施した。今年度は、「言葉によるいじめ」をテーマに各クラスで現状を出し合い、問題点とそれに対する改善点を話し合った。また、各クラス1つずつ「言葉によるいじめ」に関する標語を考え、いじめ防止フォーラムにて発表を行った。標語においては、学年賞、友だち思いで賞、生徒会賞、大賞をつけて表彰を行った。普段の生活での言動を見直し、今後の言語環境の整備に役立つよい機会となった。



写真② いじめ防止フォーラムの様子



写真③ クラスでまとめたワークシート

3 成果

普段何気なく使っている言葉について考える機会を作ったことにより、いままで気付くことのできなかった相手の思いや、いじめに繋がるかもしれない言葉に気がつくことができた。また、改善点を同時に考えることにより、これからの生活にどう生かしていけばよいのかを明確に示すことができた。職員においては、様々な研修を行うことで、自分たちの意識から変えていこうと思うきっかけとなった。

II 今後の課題

人権コーナーをさらに充実させ、学年を超えた取り組みや学年でのそれぞれの取り組みを紹介し合うような機会を設けることで、生徒の人権意識を高めていく。

道徳などで学習した道徳的価値を意識して生活に生かしていけるように、より実践的な取り組みを考え、行っていく。

III 人権コーナーの設置の様子

図書閲覧室前の掲示板に設置した。

